

ザグレブ大学の日本語教育

—学習者の誤用から見える課題—

村田恵美(ザグレブ大学)
emurata615@hotmail.com

【要約】

本発表では、ザグレブ大学哲学部日本学コースでの取り組みと、誤用から見えてくるクロアチア日本語学習者の課題について、クロアチアにおける日本語学習者および日本語を継承語とする子供達の誤用を調査した結果をまとめたものである。

1. はじめに

ザグレブ大学はクロアチア首都ザグレブに位置する総合大学で、日本学コースが在籍する哲学部をはじめとする学部が多数あり、キャンパスは各学部市内に点在している。日本との大学間協定には中央大学や東京大学がある。そのため、日本学コースの学生の中には、主専攻の研究のために日本へ留学し、留学終了後日本学に関心を持ち、日本学コースに入学する者もいる。本稿ではこうした背景を持つ日本学コースでの取り組みについてと、クロアチアにおける日本語学習者と日本語を継承語とする子供達の誤用が見えてくる課題について考察を行った。

2. 日本学コースについて

ザグレブ大学日本学コースは、2004年に哲学部インド哲学極東学科に開設された。

2-1. 哲学部

ザグレブ大学哲学部には23学科あり、日本学コースは「インド哲学極東学科」に位置する。当学部は、ペタル・グベナ (P. Guberina) を中心に提唱された VT 法 (Verbo-Tonal Method) の発音指導法が音声教育でわれており、SVAG と呼ばれる機器も現在でも使われている。

筆者が見学に行った折には、SVAG の機械にマイクとイヤホンがつながれ、マイクで発音指導者が発した声を、イヤホンをした被験者が聞き発音を繰り返していた。その際発話指導者は SVAG の機材を調整し発話を促していた。これは周波数を調整して発音の練習を行うということであった。また同室には、医療機関で使われるエコーもあった。あご下をスキャンすることにより、発話時の舌の位置や形状を視覚化するものであった。



2-2. 日本学コース

当コースは、2004年に哲学部に開設、学習者は3年間で「日本語、歴史、文学」を履修する。入学時に入学試験がおこなれるが、毎年定員を上回る応募がある。この選抜試験では日本語力を見るための試験はなく、事前提示された課題への取り組みをみるため、入学時には日本語力に大きな差が見られる場合がある。日本語は『げんき1・2』を使用し、1年半で初級を終わらせる。また、本コースは在学中に協定研究生として日本に留学する機会を得る学生も多く、帰国後日本語学コースに復学したが日本語力に差が生じる場合も合わせて多く見られるため、近年「実践日本語」という授業を設置した。

2-3. 実践日本語

学習者の中には事前に語学学校や高等学校で日本語を勉強しているものがある。最近ではインターネットによる独学で初級レベルまで既に進めているものがあるため、クラス内での語学力の差が見られる。こうした学生と前に述べた留学から帰国した学習者を含めて、JFスタンダードB1のカリキュラムを使用した「実践日本語」というクラスを開講した。

「クロアチア文化や歴史」をテーマにスピーチを行ったり、日本のインターネット番組「地球ラジオ」に投稿を行っている。また、クロアチアで旅行業に従事する日本人またはクロアチア人をゲストとして授業へ来ていただき、日本人旅行者のニーズについて話してもらったりしている。実際この活動中に「日本人観光客はトイレについて困難を感じている」という情報が入り、日本と違いクロアチアでは有料のトイレが存在していることや、比較的公衆トイレがきれいであり使いやすいこと、カフェのトイレなどはカフェの利用客が使うなど、日本との違いを記載したHPを学習者が作成した。

次に、時折日本からクロアチアへテレビ取材があったり、腹話術師のボランティアなど大学側に依頼があることがある。こうした時この授業の受講者うが中心となり対応を行う。当初窓口は教師であるが、活動後は独自での交流がはじまり、在留邦人が少ない当国において、大変貴重な機会となっているようである。

3. 学習者の誤用から見える課題

3-1. 出発点と目的

『げんきI II』修了学生に、学習時困難を感じた箇所についてアンケートを行ったところ、以下のような結果であった。

- 1位 敬語 (第19課)
- 2位 使役受け身 (第23課)
- 3位 やりもらい「あげる、もらう、くれる」(第14課)

理由として1位の敬語は「クロアチアでも「敬語」と言う概念はあるが、たくさん特別な言葉や使い方を覚える必要がある」「実際に使う機会が少ないため覚えても忘れてしまう」「使用時に正しいかどうか、考えてしまう」2位の「使役受け身」では「使役」と「受け身」が両方あるので覚えにくい」が理由に上げられていた。3位の「やりもらい」では、「その概念がない」という答えがありました。特に面白いのが、初級修了者だけでなく、N1やN2合格者でも「やりもらい」は大変難しいと答えていた。そのため、これは、学習時間とは関係のない、クロアチア語の影響があるのではないかと考え調査を行った。これは、クロアチア語母語話者の誤用パターンを認識するためではなく、日本語教師として、

日本語教授法を工夫していくためのクロアチア語母語話者の背景を観察する洞察力を養い、授業に繋がりたいと考えたのが調査を始めた動機である。

今回は以下の点に注目した。

- 1) あげる、もらう、くれる
- 2) かす、かりる
- 3) 行く、来る
- 4) 子供の言い間違い

3-2. 日本語とクロアチア語の対照例

3-2-1. 「あげる、もらう、くれる」

Andrej Bekes(2010)『初級日本語文法』を元にやりもらいについて考察を行うと、クロアチア語には「あげる」と「くれる」に対応する言葉が同じであることがわかる。

1. 木村さんは、アナさんにチョコレートあげました。

⇒ *G. Kimura je Ani dao čokoladu.*

2. アナさんは、木村さんに(から)チョコレートもらいました。

⇒ *Ana je dobila čokoladu od g. Kimure.*

3. 木村さんは私に本をくれました。

⇒ *G. Kimura je meni dao knjigu.*

3-2-2. 「かす、かりる」

同じく「貸す、借りる」を見ると、両者共に「貸す、借りる」に対応する言葉が「Posuditi」という言葉になっていることがわかる。(※本会議後多くの先生方からから、これはクロアチア語だけでなく、ドイツ語にも同じことがあることをご教授いただいた。)

4. 私は、アナさんに車を貸します。

⇒ *Ja ću Ani posuditi auto.*

5. 私は、アナさんに車を借ります。

⇒ *Ja ću posuditi auto od Ane.*

3-2-3. 「行く、来る」

またクロアチア語では「車が来る」と言うときは、本来ならば「6」の文で見られるように「Dolazi」という言葉を使うべきところを、「車に気をつけて!」と危険を知らせる場合は「7」の文で見られるように「Ide」を使う。「Dolazi」は英語では「Come」にあたり、「Ide」は「Go」と同じ意味を持つ。つまり、同じ「車が来る」という文でも緊急性を表す場合には、車に対する視点が変わっているのである。

6. 車が来る。⇒ *Auto dolazi. (= is coming)*

7. 車が来るよ! ⇒ *Auto ide! (= go)*

3-2-4. 「子どもの言い間違い」

次に、日本語を母語とする親を、父か母かどちらかに持つ子供たちの言葉から、彼らが言い間違え

た言葉を集めてみ結果が以下の「8」から「9」である。

8. 「ママ、部屋にアナちゃんある？」

⇒ *Mama, da ima Ane u sobi?* (Ima は英語での Have/Has と訳されることが多い)

9. 「アナちゃんがママが必要だって。」

⇒ *Ana je rekla da treba mamu.* (treba は英語で Need と訳れることが多い)

10. 「ママ、(私に)ズボンはいて」

⇒ *Mama, obuci mi hlače.*

Mama, obuci si hlače.

11. 「それ、私にあげて。」

⇒ 「あげる/くれる」

12. 「パン、(私に)切ってもいいよ」

⇒ *Možeš mi izrezati kruh?*

Molim vas izrezite mi kruh.

8や9は、クロアチア語からの直訳の影響で誤用が生じていることが考えられる。10や11では日本語では使役の使い方と、やりもらいの概念が影響しているようである。Trickovic Divna (2010) では「やりもらい」の概念に対して「セルビア人にとっては自分の依頼を伝えたいということが先に来る」と述べている。日本人の相手を含めたやりもらいに関する視点とクロアチア語での概念の違いに注目する必要がある。

次に12の「許可」と「可能」の使用による誤用だが、子供たちが間違えた背景にはクロアチア語の「Moći」が影響したものと考えられる。外国人がこの言葉を習う場合、意味は英語の「Can」に当たる可能であるとまずは教えられる。格変化は以下のとおりである。

「Moći の格変化」

(Ja/私) mogu

(Ti/あなた) možeš

(on, ona/彼、彼女) može

(Mi/私たち) možemo

(Vi/あなた達、あなたの尊敬語) možete

(oni, one/彼ら、彼女ら) mogu

<例文>

Ti možeš citati Japanski. 「あなたは日本語が読める。」

「あなたは日本語を読むことができる」

そのため、以下の日本は「対訳1」のように「許可」の意味を表す「smijem」を用いるのがふさわしいと考えられる。

「店員：アイスにチョコレートをかけてもいいですか？/かけますか？」

「子供：はい。お願いします。」

「対訳1」

A: Da li smijem staviti cokoladu na sladoled?

B: Da, molim.

しかし、多くの場合「対訳1」のように会話されることは少なく、実際の場面では「Mogu」を使った

「対訳2」のように会話がなされる。

「対訳2」

A: Mogu staviti cokoladu na sladoled?

B: Može.

さらに興味深いことに B の発話は主語が、「あなたはできますよ」という意味での「možeš」や「možete」を使わずに「彼/彼女」を表す「može」を使っている事も大変面白い。

これらのことを踏まえ、子供の誤用に戻ると 12 で見られる発話の背景を理解することができる。しかし一方でこの使い方では大変高飛車なイメージが強く、ミスコミュニケーションにつながりやすことも念頭においておく必要があるだろう。

12) 「パン、(私に) 切ってもいいよ」

⇒ *Možeš mi izrezati kruh?*

Molim vas izrezite mi kruh

また今後の課題として日本語における「ことができる」についても注目してみたい。

4. 結果

考察の結果、日本語とクロアチアにおける視点が異なる場合があり、文型導入時には、学習者のこうした背景がクロアチア語にもあることを念頭に入れ、的確な導入が必要であることがわかる。また本発表終了時には、多くの方からクロアチア語だけでなく「借りる、貸す」のように呼応する語彙がない言語があること、子供の使用においては、親が日本語母語話者で、かつ日本で育っている子供の発話においても「はかせて」「あげて」の使い方に誤用が見られる事を教えていただいた。クロアチアで一人考察を進めていた筆者にとって大変貴重な助言を得ることができとても感謝している。今後の課題として、クロアチア語におけるアスペクト、視点、可能文と同意文の分析を行って行きたいと考えている。

参考文献

Andrej Bekes (2010) 『初級日本語文法』リュブリャナ大学出版

川崎加奈子 (2009) 『ブルガリア語と日本語の比較』放送大学修士論文

三谷恵子 (1997) 『クロアチア語ハンドブック』大学書林

重盛千香子 (1992) 「日本語とスロベニア語における再帰行為・現の対照」『日本語連絡会議論文集』第 5 号、56-67

重盛千香子 (1998) 「日本語とスロベニア語の基礎動詞-ヴォイスの観点からの対照」『日本語教育連絡会議論文集』第 11 号、61-66

鈴木孝夫 (1973) 『言葉と文化』岩波新書

外山滋比古 (1994) 『日本語の論理』中央文庫

Trickovic Divna (2010) 「日本語とセルビア語の視点の相互に関する一考察」『日本語教育連絡会議論文集』第 22 号、115-161